

高精度・高品質な製品で支持され続ける プラスチック成形の専門メーカー

事業内容

各種プラスチック成形製品の企画・設計から製造まで、トータルコーディネートにて行う専門メーカー。電子部品や、弱電部品、自動車部品、POP ツールなど、幅広い業界からの多種多様なニーズに対応。創業 50 年を超える豊富な経験と実績、ハイレベルな技術から生み出される高精度・高品質な製品を強みに、堅実に事業展開を進めている。

特許登録番号と内容

特許公開 2010-279469	組立式棚
特許公開 2005-081613	合成樹脂ベレット又はパウダー混合用ホッパー
特許公開 2004-234351	自動販売機用煙草見本
実用新案登録第 3108924 号	商品表示板
実用新案登録第 3107733 号	サンプル収納ケース

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA (2012年7月現在)



代表取締役社長 長谷川英暁さん

プラスチックの黎明期から ニーズに応え続けて50年

戦後、日本で初めてのプラスチック射出成形事業がスタートして間もなく、株式会社総合プラスチックもその歴史の幕を開けた。「創業者である私の父は、戦前、東京都の産業技術研究センター（旧・工業奨励館）に勤務したこともある、鋳物関連の技術者でした。戦後になり、これから伸びゆく産業として手掛けるならば、樹脂関連か、電気関連か、と考えた時に、『自分の目で見てわかる世界のほうがいい』と、樹脂＝プラスチック成形加工の道を選んだそうです」と、代表取締役社長の長谷川英暁さん。創業当時より、特定の業界に偏る事なく、幅広い業種からのニーズに対応。商品展示台やノベルティーなどのPOP ツールをはじめ、シリコンウェハー容器などの電子部品、弱電部品、自動車部品、また成形転写システムなども扱いながら着実に成長。さらに数年前からバイオテクノロジーの分野にも進出。カプセルブレードや、TIゲノムエリユータ、LF ヲチューブなどの製品も手掛け、活躍の場を拡げている。

設計から商品納入まで トータルコーディネートが強み

山手線の駅からも歩ける好立地に 24 時間稼働のクリーン工場を有し、300t 以上の射出成形機を備える同社は、都内のプラスチックメーカーとしては稀少な存在。

短納期や小ロット、高品質の要求にも充分に対応できる設備環境と、中小企業ならではの小回りのきく、きめ細やかなサービスで、多くの顧客から支持され続けてきた。また、デザインのプランニングからモデリング、試作品の提示、製品納入までトータルにコーディネートできることが大きな強み。新製品の企画・開発段階から相談を受けることも多く、簡単なアイデアスケッチを渡され、「ここから先を頼む」と丸ごと任せられることもしばしば。「それに応えられることが、私たちの武器なのです。シンプルなスケッチ画から、基本設計、構造設計を起こして、提案をする。大手メーカーなら当然やっていることではと思うが、この規模で、設計も金型試作も、と総合的にサポートできる会社はあまりない。これが、私たちが評価されている理由ではないでしょうか」と、長谷川社長。

構造設計だけでなく、プラスチック成形製品には、外観デザインの美しさも求められる。そうした顧客の要求に見合った機能とデザインを備えた製品を創造できるのは、豊富な経験と、たゆまない企業努力があればこそ。50 年の歴史の中で重ねて来た実績が同社の力となり、今に繋がっている。

見ただけでわかる構造設計は 知的財産権にて守る努力も

顧客のためにアイデアをひねり、生み出された製品

COMPANY DATA

所在地：東京都荒川区東尾久 5-34-3
 電話番号：03-3893-3824 URL：http://www.sogoplas.co.jp
 創業：1960年4月 資本金：3000万円 売上高：非公開
 従業員数：16人（2012年5月現在）

バイオテクノロジー分野

カプセルブレード、TIゲノムエリユータ、LF ヲチューブ。一歩先んじたテクノロジーによって、より高精度なプラスチック成形製品の開発と製造にも力を注いでいる。



すべてが、当社にとっては貴重な知的財産。特許公開や実用新案登録をしているものも多数ある。

「構造設計などは見ればわかってしまうもの。もしも他社に真似されて、特許を取られてしまったら、と考えると怖いですね。そうした危険から自分たちの技術を守る為に、特許権を申請しているものもあります。しかし、手の内を全世界に明かしてしまうのがいいことかどうか、悩ましいところ。また、特許は申請にも維持にも費用が掛かりますから、費用対効果も考慮し、公開すべき技術かどうかを判断しています」と、長谷川社長。

かつて苦い経験もした。同社製品市場に出てわずか半年で、台湾からデッドコピーが出てしまったのだ。ただ、「大量に売れる製品ではなかったため、特に対応は

次世代へと受け継がれるノウハウこそ 中小企業が生き残るための財産

プラスチック成形製品の金型設計、製品設計に強い同社。その設計に携わっているのは長谷川社長自身と、同社の社員である息子の2人。長年、積み重ねてきた設計のノウハウと、磨かれてきたデザインセンスは、今、次世代へと受け継がれようとしている。

POP ツール、商品展示台、ノベルティー。クオリティーの高いデザインセンス、仕上がりの美しさには定評がある。



電子部品

シリコンウェハー容器、自動記録式温湿度計。マイクロ単位の寸法要求に応え、強度や硬度などの耐久性も加味しながら、設計開発から試作、量産までを一貫して請け負っている。

しませんでした。今も、輸出される製品を手掛けることは少ないので、それほど神経質にはなっていません。

現在の課題は、近年ますます高くなっている品質要求のレベルに応じていくことだ。「外観も寸法精度も、昔のままのレベルでは通用しなくなっています。その要求を満たせるようにさらに技術を磨き、これからは高精度・高品質な製品を生み出していきます」と、長谷川社長は姿勢を正す。

顧客のオーダーによって、引き上げられる同社のテクノロジー。そこから生まれるハイレベルな製品が、同社の評価をさらに高めていく。これからは総合プラスチックの製品は、ハイクオリティーな頼れる部品として、広く支持されていくことだろう。

知的財産活用のポイント

製造業での後継者不足が問題となっている現代において、事業を継承できる人材がいることは、幸運とも言える。こうして受け継がれるノウハウこそが、中小企業にとってはなにより知財。市場のニーズに応え、事業を継続し続けるためには、設備投資ももちろん重要だが、蓄積されたノウハウを伝え、守り、育てていくことが、貴重な財産となる。